

学びの広場 2017

教育委員会

「ICT教育」の取り組み

ICT教育についての本町の取り組みは、本紙平成28年1月号「学びの広場」でお伝えしていますが、今回は活用状況をご紹介します。

【問い合わせ】教育課 学校教育係 ☎(83) 7023

ICT教育とは

学校教育の場に情報通信技術(ICT)を活用することで、具体的には、電子黒板やノートパソコン、タブレット型端末(写真)などを用いて教育の質の向上を目指します。



学校教育の場に情報通信技術(ICT)を活用することで、具体的には、電子黒板やノートパソコン、タブレット型端末(写真)などを用いて教育の質の向上を目指します。

ICT機器の整備状況について

平成28年度に大部分のICT機器の整備が完了し、本年度は、中学3年生にタブレットと教室にプロジェクターを配備する予定です。

これにより小学5年生から中学3年生までICT機器が整備され、公立学校としては県下でもまれな程充実した環境を整えています。

ICT機器を活用した授業・研修

タブレット端末が1人1台の環境となり、子ども達は授業で協働版のソフトなどを活用しながら学び合い、学習を進めています。

先生方は放課後や夏休みを利用して指導力向上研修を定期的に受講し、スキルアップを図っています。また昨年度は、C-learning(教材などの保管箱のこと)の利用研修、大学教授による講演会及びワークショップ、プログラミング研修、学校における授業研究、



平成28年8月22日
開催のICT研修

ICT教育に関するアンケート調査の結果

今後さらにICT教育環境を推進するために、「平成28年度のICT教育の効果や課題」について、アンケート調査を先生、児童・生徒、保護者を対象に実施しました。

アンケート結果 概要

小中学校 先生 「児童・生徒の関心や意欲を高めることに効果的だと思う」と回答した先生は小学校100%で中学校は95%であり、ほとんどの先生がタブレットの必要性を感じていることが分かります。「とても効果的だと思う」と回答した先生は62%と昨年度のアンケート結果に比べ、大きく増加しています。

児童 「タブレットを使った学習は分かりやすい」、「タブレットを使った授業は楽しい」という回答は、それぞれ80〜90%でした。

生徒 タブレット授業には肯定的な意見が多数ありました。小学校保護者 「タブレットを使った授業が行われていることを知っている」と回答した保護者は、95%を超えていました。

中学校保護者 「タブレット授業は必要だと感じる」と回答した保護者は、70%と、非常に高い割合でした。

こうした意見を踏まえ、今後の取り組みに反映させ、さらにICT教育の推進・充実に努めてまいります。

写真撮影 編

スコット先生&テイス先生のミニ英会話



• Excuse me, could you take a picture of me / us?
すみませんが、私の(私達の)写真を撮っていただけますか?

• Excuse me, may I take a picture with you?
すみませんが、あなたと一緒に写真を撮っていいですか?

Yeah, sure! いいですよ!

Would you like me to take your picture?
あなたの写真を撮ってあげましょうか?

Yes, please! はい、お願いします!



★頼む時は「Excuse me」を忘れずに、礼儀正しく話しましょう!

歴史講座

『相模松田氏とその興亡』

7月1日(土)

午前10時〜11時30分

会場 町民文化センター

展示ホール

講師 文化財保護委員

平賀康雄 会長

【申し込み】 ☎(83) 7021

松田文化財探訪

矢倉沢往還17

文化財保護委員 草門 隆

「青山街道本道争い」事件の検証(その四)

今まで「青山街道本道争い」事件に密接な関係があると思われる「十文字渡し場の変遷」を、4つの時代・場所について記述しました。

全体的にみると、「十文字渡し場」は順次酒匂川の上流に移動しています。これを前回に続けると、明治22(1889)年に十文字橋の設置。昭和45(1970)年には、県道712号の完成に伴い、新十文字橋が開通。



「小田急・新松田駅舎(昭和2〜54年)」(私蔵)

この背景には、昭和39年の国道246号や昭和44年の東名高速道路の開通がありました。

従って「十文字渡し場」の変遷については、近隣の町・村との関係はもとより、国策にも通じているものと言えます。東西からの比較的大きな川によって構成している当町にとっては、時代が変わっても「道と橋」の因果関係は類似していると思います。

特に、江戸時代中期以降「講」と称する民衆の集団参詣が大変活発となり、近くに富士山、大山、最乗寺を擁し「参詣者受け入れの地」となり、道筋の生業として、宿屋・茶屋(飲食店)・各種のお店等の当事者にとっては死活問題であり、まさに幕末に発生した「青山街道本道争い」に至ったものと考えられます。

現在のJR松田駅や新松田駅周辺は、地形・地質的に開発の遅れた場所でしたが、明治13(1880)年に郡役所を関本から松田に移すと共に、東海道本線として省線・松田駅を誘致、隣町への3か所の橋を整備し自由な往来を助長させました。

更には、昭和2(1927)年「小田急の五大停車場」の一つとして、斬新な外観・牧舎風の「新松田駅(写真)」もでき、「松田が一番輝いた頃」(町発行の『松田百年』P34参照)に繋がりました。

何れに致しましても、我が町の先人達は生計を営むために一生懸命だったのでしょう。そのお蔭をもってこの県西部地区の中核をなし、交通の要衝として町発展の基礎を築いたものと理解します。

以上が管見ながら、事件の人的話題を除いた「青山街道本道争い」の検証と総括です。

◆日程変更のお知らせ 4月号でお伝えした、「ジュニアキャンプ」は8月4日(金)、5日(土) 県立足柄ふれあいの村になります。